

# 令和2年度 地域連携安全・安心推進事業

能代市立能代東中学校 教諭 高橋 毅

## 実践事項

- 実践委員会(7月, 11月, 2月)
- 防災・救命講習会の実施(7月)
- 避難訓練(1回目 5月 地震想定) (2回目 9月 不審者侵入対応)  
(3回目 10月 火災想定) (4回目 1月 避難所開設訓練)  
(11月 緊急地震速報訓練参加:シェイクアウト訓練)
- 小中合同防災マップづくり
- 2年宿泊研修で防災学習館を訪問し防災学習を, 3年修学旅行で気仙沼市東日本大震災  
遺構・伝承館や三陸鉄道を訪問し震災学習を行った。
- 防災小説づくり(2年生)

# 防災・救命講習会

- ・ AED実施後、すぐに胸骨圧迫を再開できる。
- ・ 迅速かつ適切に気道異物除去法を実施することができる。



日本赤十字社秋田県支部

- ・救急法に関する体験型プログラムを実施。
- ・BLS(一次救命措置)とけがの手当の仕方について



一次救命措置の体験プログラムの様子

三角巾を使った応急手当の体験プログラム



# 避難訓練（地震想定）

新型コロナウイルス感染予防を考慮し、避難する時間をずらして実施



# 避難訓練（不審者侵入対応）

職員の動きと生徒が不審者と接触しないような対策の実地練習



# 避難訓練（火災想定）



生徒による煙体験



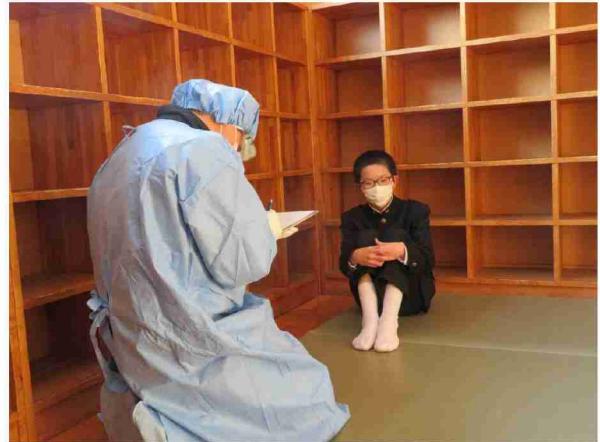
校内消火栓による模擬消火



# 避難訓練（避難所開設訓練）



市民福祉部職員による事前受付



熱のある避難者のための待機部屋



地域住民による避難者の受付



中学生による非常食の配布ボランティア



市防災危機管理室職員からの講評



新型コロナウイルス予防のための  
パーテーションの設置体験

## 小中合同防災マップ作り



## 3年 修学旅行



## 2年 宿泊研修(防災學習館にて)



# 防災小説

ねらい：避難訓練や防災対策を自分事と捉え、災害をイメージして行動したり、備えたりする態度を育てる。

設定：2021年 3月11日

秋田県日本海沖でM8の地震が発生。

内容：「自分はどう行動し、何を感じているか。」

「家族の様子や町の様子はどうなっているか。」

「小説は、ハッピーエンドで終わる。」

## 生徒の感想

防災小説を書いてみて、本当にあつたらどうなるかということをたくさん考えることができました。また、友達の発表を聞いて、人それぞれの考え方があるんだと感じました。地震だけでなく、二次災害なども詳しく書いていてとても良かったです。もし、地震が起きたら、みんなの小説のように避難したいです。 Aさん

防災小説を書くことで、今まで深く考えなかった災害について考えることができました。地震の怖さや避難の仕方なども再確認することができました。

普段兄弟とけんかしたりする日々も幸せであることがわかりました。 Bさん

## 能代東中学校 防災小説（生徒作品）

（Aさん）

3月11日の午前8時、私はいつものように学校で友達とおしゃべりをしていた。すると突然、大きな地震が起きた。素早く全員が机の下に入った。私は、ふと家族のことを思い出した。母は家に、父は仕事に行っている。兄や弟も学校にいる。みんな無事であるようにと思いながら、揺れがおさまるのを待った。揺れがおさまると、全員廊下に並んだ。物が床に散乱していた。窓ガラスが割れ、壁に飾っていた物はすべて落ちていた。そんな光景を横目で見ながら、素早く先生の指示で校庭へ避難した。

全員の避難が終わったが、津波がくることがわかった。津波が来ることを知っても騒ぎ出す人は誰もいなかった。みんな冷静に高台への避難を始めた。避難先の山で土砂崩れが起きていたため、別の山へ避難した。地域の方々も避難を始め、一緒に避難した。転んでも立ち上がって、疲れていても必死になってとにかく津波から逃げようと走った。避難先の山に着くころには、津波がどんどん町の方に押し寄せていた。最初に避難しようとした山は既に津波にのみ込まれかけていた。あの山に避難しなくて良かったと思った。避難してから1時間、東中の生徒や先生はもちろん、周辺地域の方々も無事に避難することができた。

（Bさん）

2021年3月11日に起きた地震をみんなは覚えているだろうか。僕はその時間友達と学校の教室で話をしていた。

その時、僕の体が大きな力で揺さぶられた。地震だと分かって先生たちは校庭に避難しろと指示を出してくれた。避難しているとき、僕は家族は無事に避難しているか、生きているのだろうかと考えていた。校庭に避難し、周りを見回すと、いつもの景色が一変していた。田んぼはとても悲惨な状況になっていた。川の水は勢いよく流れ、道路は液状化していた。地震のせいで家が崩れたり、農業関係の仕事ができなくなっていたりする人もいた。こんな能代市を救うことはできるのだろうか。正直無理だという気持ちになったが、自分たちの手でやるしかないと思った。

そこで、みんなで能代の復興のために、ボランティア活動に参加した。まだ地震前の能代とはいえないが、みんなが暮らしやすい能代になるように頑張りたい。

# 防災アンケートから

## 事業開始前

- ・食料や水を配るボランティア
- ・避難するように声をかけたり、避難所へ誘導したりする。
- ・大人の手伝い。
- ・子供やお年寄りの面倒を見る。
- ・避難所でうるさくしない。
- ・何をすれば良いかわからぬい。



## 年度末

- ・食料や水を配るボランティア
- ・避難するように声をかけたり、避難所へ誘導したりする。
- ◎がれきの撤去や物資を運ぶための力仕事。
- ◎避難所の設置を手伝う。
- ◎子供の面倒を見たり、お年寄りの話を聞いたりする。
- ◎できることを見つける。貢献する。

# 成果と課題

## ○成果

- ・避難所開設訓練では、コロナ禍での避難を想定し、地域住民、関係機関、学校が連携して実施できた。
- ・生徒や教員の防災に対する意識を高めることができた。

## ▲課題

- ・救命講習や避難訓練における地域の方とより連携した取組。